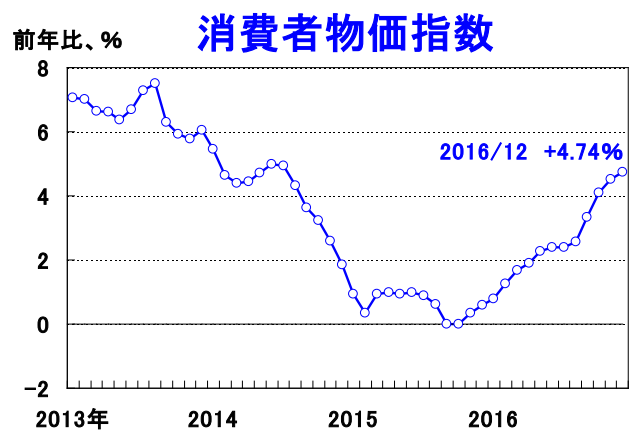
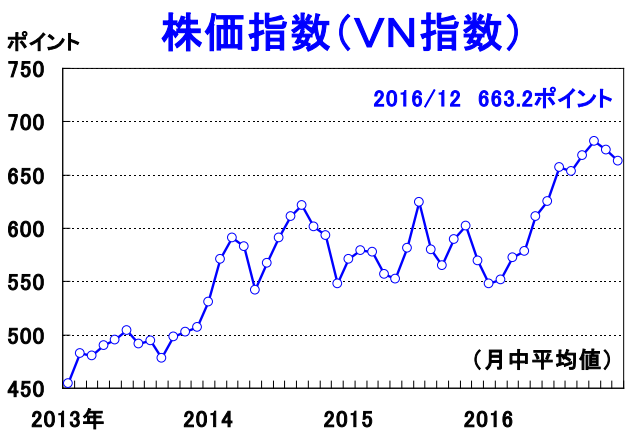
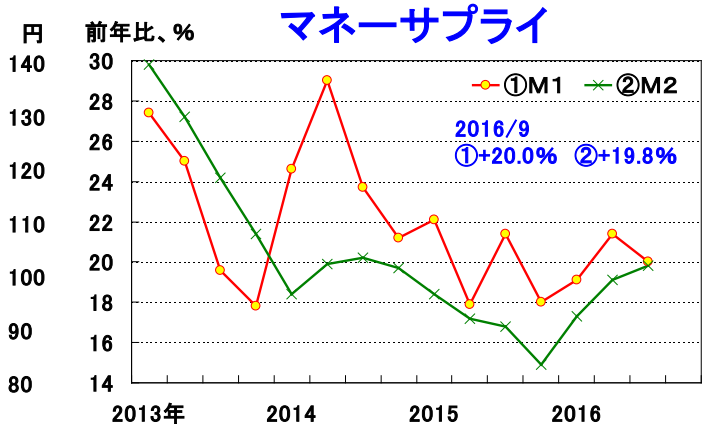
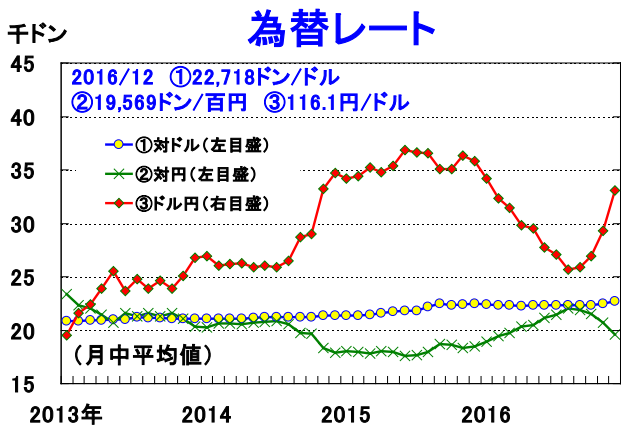
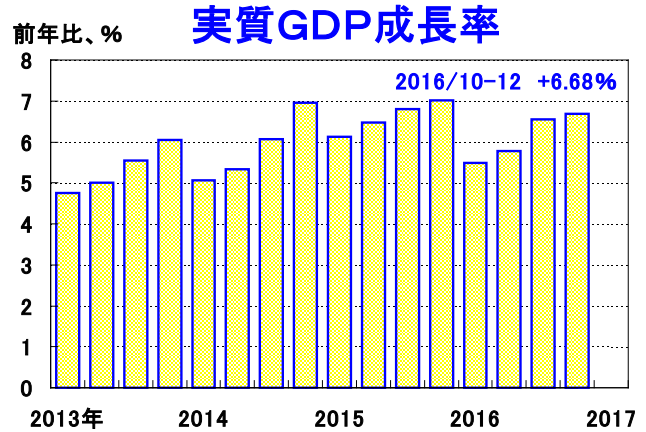
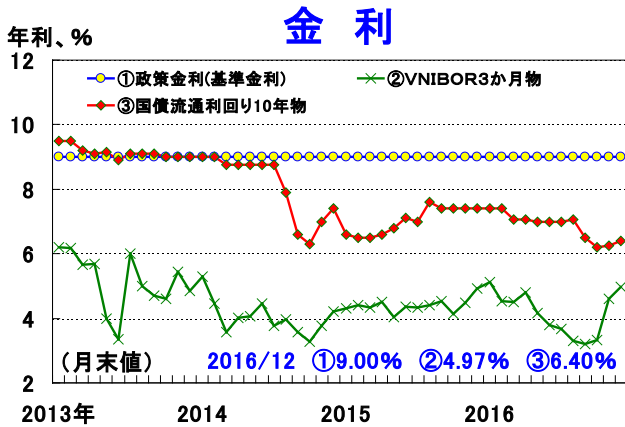


# グラフで見るベトナム経済 2017年1月号(No. 84)

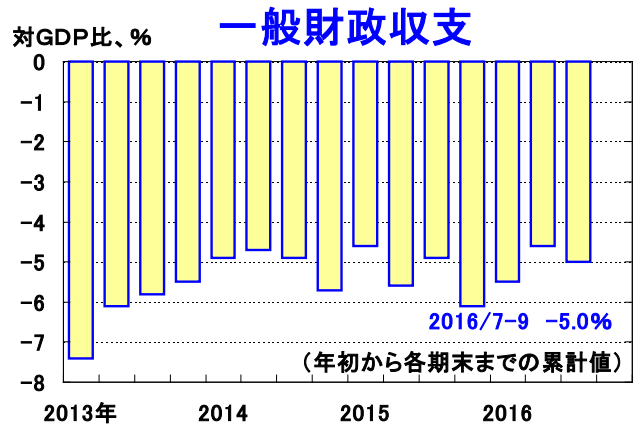
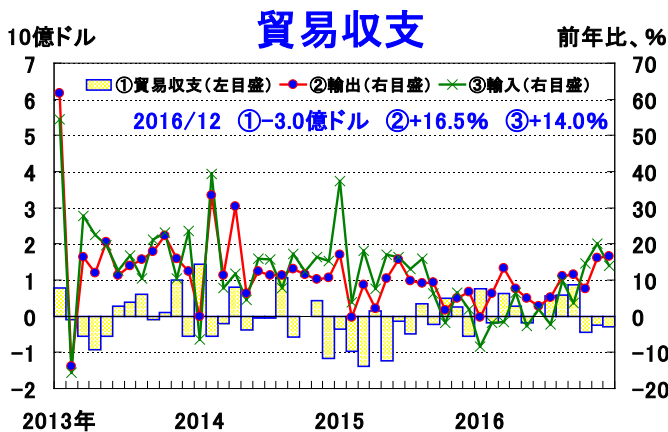
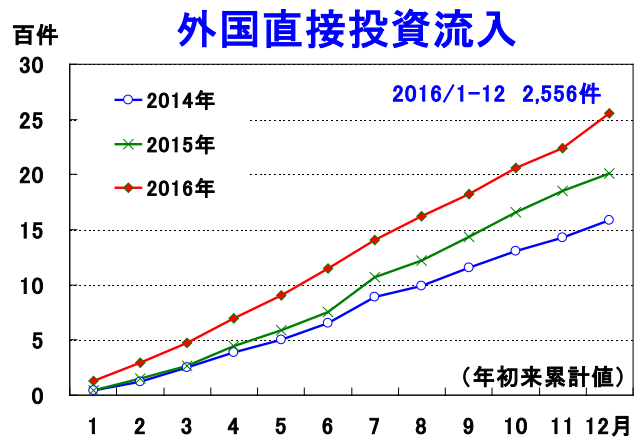
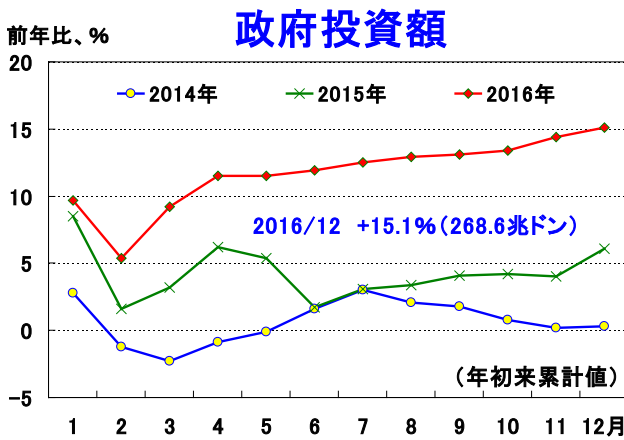
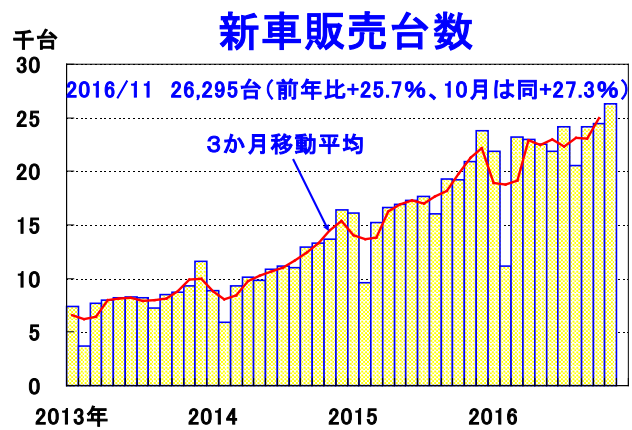
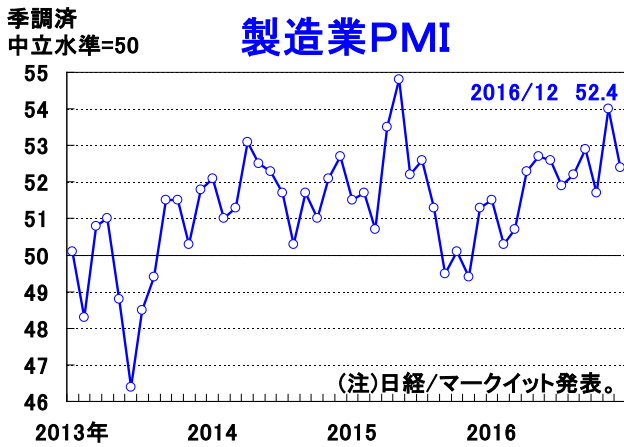
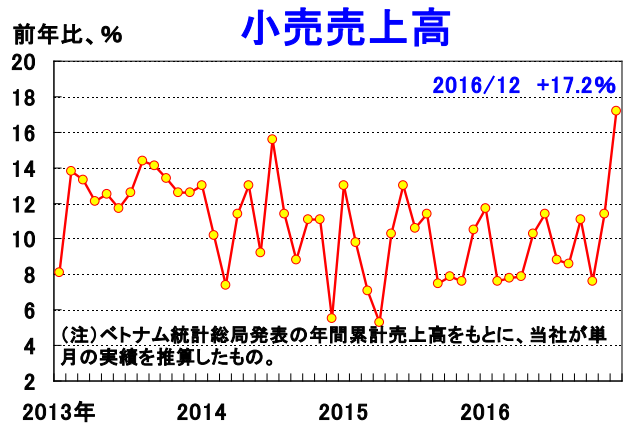
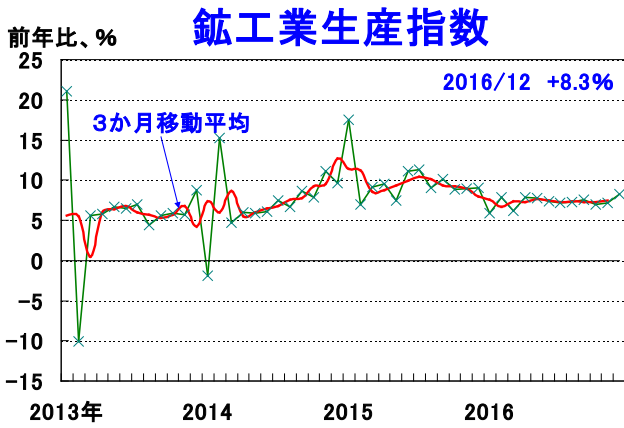
ベトナム経済は、成長率には若干の陰りもみられるが、総じて回復基調にある。2016年10～12月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+6.68%と、第4四半期としては3年ぶりの低い伸びとなった。一方、同期内の月次指標をみると、12月の輸出は前年比+16.5%(前月は同+16.1%)と約2年ぶりの高い伸びとなり、また同月の鉱工業生産も同+8.3%と伸びが前月(同+7.2%)を上回っている。家計部門に目を向けても、個人消費の動きを表す12月の小売売上高が前年比+17.2%(前月は同+11.4%)と55か月ぶりの高い伸びを記録した。



【今月のトピック:輸出の政府目標の達成が困難に】ベトナムの2016年1～11月の累計輸出額は1,600億ドル、前年比7.5%増にとどまった。2016年の輸出伸び率の政府目標である同10%増の達成は、ほぼ絶望的となった。品目別にみると、中国など近隣国が輸入を削減したコメの輸出が大幅に減少したほか、繊維製品の伸びも前年比5%増と、ここ数年の伸びの約半分にとどまった。携帯電話関連の輸出も同10%増と、前年の30%増を大きく下回った。周辺国との輸出競争が激化し、米国のTPP脱退が予想されるなかで、ベトナムは改めて輸出振興策の見直しを迫られている。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。